

## 第3回大阪府森林環境整備事業評価審議会 議事要旨

- 開催日時 平成28年11月28日(月)13:00～16:50
- 現場視察 河内長野市セノ谷・島の谷地区、府立富田林子ども家庭センター
- 審議場所 南河内府民センター会議室、
- 出席委員 梶原委員、蔵治委員、武田委員、増田委員 以上4名(五十音順)

### ■現場視察

- 前回の評価審議会で武田委員より、「審議会での検証方法については、書類だけでなく、現場を見た上で評価した方が説得力が増す。現地の実態を認識しておく必要がある。」という意見があり、第3回審議会では現場視察を実施。
- 基盤づくり事業計画地のひとつである、河内長野市のセノ谷・島の谷地区において、実際に当該地区で林業に携わっている府指導林家の奥野寿一氏から、この地における森林経営の歴史と今後の展望について説明を受けた。
- 府立富田林子ども家庭センターにおいて、内装を木質化した部屋を視察（子育て施設木のぬくもり推進事業の参考事例として）。

### ■審議議事要旨

#### 1 平成28年度実施中および29年度実施予定の森林環境整備事業について

##### 主要道路沿いにおける倒木対策事業

- どのような状況でナラ枯れが起こるのか。  
⇒カシノナガキクイムシの幼虫が木の中で生育し、木を枯死させる。繁殖することによって周りの木に被害が広がっていく。被害範囲は北側から南下し、この1年で4倍増。
- ナラ枯れは北から南下しているということだが、南から北上しているものもあるのでは。泉佐野市の倒木対策事業は南方から来たナラ枯れか。  
⇒南下しているケースでは、河内長野市がその「最前線」となっている。和歌山から北上しているケースではまだ大阪府域には達していない状況であり、泉佐野市で顕著な被害が発生しているとの報告はないものの、予防対策として事業を実施する。
- 害虫の発生状況等について他府県との連携はとっているのか。  
⇒近畿ブロック会議等で情報交換している。

##### 持続的な森づくり推進事業（基盤づくり）

- 1箇所ごとの事業費の目安のようなものはあるのか。現場に応じて臨機応変に対応しているのか。  
⇒各現場の状況によって異なる。改善する箇所が多いほど事業費が上がる。特に目安は設けずに経営計画を実現するための調整をして実施していく。
- 予算が限られている中で、多数の事業箇所をどう調整するのか。  
⇒各農緑事務所で予算を考慮しつつ、必要箇所を精査しながら調整している。
- H28、H29の18箇所の合意の状況は。  
⇒森林経営計画を立てる際に森林環境税の事業を地権者説明した上で受委託の契約を結んでおり、現在のところいずれの箇所においても順調に進んでいる。

- 事業計画の箇所数の表現で完了した箇所が把握できずわかりづらい。  
⇒修正する。

### **持続的な森づくり推進事業（林地残材等木質資源活用）**

- 予算がH28で285万円、H29で1,807万円と非常に大きくなっているがなぜ。  
⇒当初4年間の長期契約による実施を予定していたが、より効果的な実施手法を検討した結果、H28単年とH29～31の3年契約に分けたことによる。

### **子育て施設木のぬくもり推進事業**

- 体育館の床の張替えも対象になるのか。  
⇒幼稚園、保育園の付属施設なら可能性はある。
- 実施した施設数は予定より多いが、事業費が少ないのはどういうことか。  
⇒1件当たりの補助額が上限250万円に対し、補助額の平均が約200万円と下回っているため。
- 使用する材質はどのようにして選定するのか。  
⇒府内産材であることを条件にしているが、材質の選択については申請者に委ねている。

### **その他**

- 中間報告として、課題がある事業と順調に進んでいる事業の評価を入れたほうがいいのでは。  
⇒次回の中間報告の際には、自己評価としてお示しすることにした。
- 国の環境税と府の森林環境税との整合性、バランスを教えてください。  
⇒国の環境税の事業のメニューが示されれば、それに応じて検討していきたいが、現時点では、大阪府民の安全安心に特化して森林環境税の事業を進めていく。
- 評価の中にはパリ協定のことについては触れていないが、それをどう導入していくのか国と整合性をとりながら府の指針を示すべきだが、実際はどうか。  
⇒国の方でCO2排出削減で森林をどれだけ見込むのか方向付け等指針が出れば、府もそれにしたがって森林の機能を活かし森林保全をどう進めるか議論すべきだが、現時点ではそこまでの指針等は明らかにされていない。